



2007年

5月

朝日新聞「明日への環境賞」を受賞

当財団が、朝日新聞「明日への環境賞」を受賞しました。
4月13日の「朝日」紙上で発表。4月24日に開かれた表彰式には、森脇君雄理事長、宮本憲一理事らが出席しました。



多士済々

2007年3月17日(土)、大阪府商工会館で「地域からすすめる参加型まちづくりシンポジウム」が行われました。当日は、大阪市域だけではなく、徳島、鳥取、名古屋、東京など各地から154名の参加者が集まり、「参加型まちづくり」に対する関心の高さを示しました。(2~6面に特集)



写真左上から右へ
大久保昌一、大久保規子、塩崎賢明、
新田保次、池田恭和、小田切聡、
阪本一恵、梶紀久代、藤江徹の各氏

●目次

特集 参加型でいこう!まちづくり

〈SHITEN〉環境再生と参加型まちづくり	植田 和弘 2
地域発!低速交通の時代がやってくる ～道路提言パート6(素案)を発表	村松 昭夫 6
地域からすすめる参加型まちづくりシンポジウム	入江智恵子 4
“クルマ依存社会を考える” 道路環境市民塾の4年間の取り組み	小平 智子 8
〈連載〉⑥ デ・グスタ・エスパーニャ?⑥	田村 隆好 3
市民参加で憩いの場にー清溪川復元事業完成から1年ー	矢羽田 薫 7
〈リレーエッセー〉上海はどこへ向かう	塩崎 賢明 10
〈忙中一筆〉修業中の身ですが…	清水万由子 12



環境再生にかかわる課題を、さまざまな視点から自由に論じるコーナーです。

特集 参加型でいこう! まちづくり

財団設立から10年、大気汚染公害の根絶、交通まちづくりなどに取り組んできました。「持続可能な地域・まち」をキーワードに、地域で働き、生活する人たちとともに考えたい 「地域からすすめる『参加型』まちづくり」をテーマに、開催したシンポジウムを紹介します。シンポでは「道路提言パート6(素案)」を発表しました。

環境再生と参加型まちづくり

植田 和弘

環境を再生し、公害を二度と起こさない地域社会をつくること、これは公害を経験したすべての地域の願いであるし、21世紀初頭における日本社会の課題でもある。この課題に応えうる地域社会を、ここでは持続可能な地域社会と呼んでおこう。

コミュニティの現代的再生の過程

持続可能な地域社会づくりとはどういうことか。そして、持続可能な地域社会づくりは、誰がどのようにすすめていけばよいのだろうか。

結論を先取りして言えば、持続可能な地域社会づくりとは、人間の生存やアメニティを重視するコミュニティを現代的に再生することである。人間の生存やアメニティを危うくする過程は、同時にコミュニティの解体過程と一致する。他方、人間の生存やアメニティを危うくする原因を抑制し、人間が自然と共生しうる関係を回復する過程は、家族と地域のコミュニティを再建する過程でもある。その過程は、市場では評価し得ない土地や環

境の潜在力を評価する環境アセスメントが実質化される過程であるし、情報公開や知る権利が制度化され地域固有財についての情報と地域計画についての情報が、住民の共同の資産となつて相互の関係が認識される過程でもある。

参加型まちづくりの制度化

持続可能な地域社会づくりの主体は誰か。地域住民が、自分の街、住居、働く場など、すべての空間で生活の質を高める意欲を持つことが、持続可能な地域社会づくりの前提である。このことは地域住民がまちづくりに関心を持つことにながらるが、そのためには参加型まちづくりが制度化されなければならない。そして、地域住民がよりよいまちづくりやそのための仕組みを模索していく場がなければならぬ。

ここで参加型まちづくりにおける参加とは、二重の意味での参加を意味している。すなわち、1つは行政が立案し議会で決定・承認される総合計画などの策定過程に住民が参加することである。この

ことは従来から議論されてきたが、情報公開の進展という課題ともあわせて、日本においては依然として重要な課題である。

合意形成のための場づくり

もう1つは住民自身によるまちづくりに関する公論形成の場がつけられることである。持続可能な地域社会をめざすまちづくりのビジョンに関する合意形成の場と位置づけられるであろう。こうした公論形成や合意形成のための場づくりは、近年討議民主主義ないし熟議民主主義などと呼ばれる民主主義の活性化を促す形態を模索する議論とも関連している。そこでの合意は総合計画などでも尊重される必要があるとともに、そうした場がある。それだけではなく、まちづくりに関する討議が活発に行われること自体の価値も見逃されてはならない。

サステイナブル・シティの政策目標

このことは、サステイナブル・シティ(持続可能な都市)に関してEU/ECが1996年に刊行した報告書(Euro-pean Sustainable Cities)において、サステイナブル・シティ(持続可能な都市)の政策目標、とりわけそれぞれの都市に



参加型まちづくりシンポジウムで発言する植田さん

おける個別的的政策目標は、はじめから与えられているものではなく、「市民の生活の質を構成している要素は何か」を、多くの人々が集まって検討していく中で具体化されてくるものである、とされていることも符合する。自分たちのまちはいかにあるべきか、皆で集まって議論するのであるが、そうしたコミュニケーション過程の結果、皆がまちのことをよく知ることになるし、何をしなければならぬかが共通認識になっていくであろう。

参加型まちづくりに基づくコミュニケーションは、持続可能な地域社会づくりを統合的に実現するための知的基盤や社会的基盤を形成するとともに、さまざまな試行錯誤の中から、まちづくりが創造性を獲得することを促すであろう。この過程こそ、住民が自治の担い手としてコミュニケーション能力を高め、まちづくりをデザインする力量を高める過程となるであろう。

(つえた かずひろ・
京都大学大学院経済研究科教授、財
団理事)



セマナサンタ(カトリック圏で行われるキリスト教のお祭り)の様子



人にやさしいセルビアのバス交通

を書いている今、日本は花見で盛り上がっていることと思います。ここセビリア(セルビア)では人々はグアダルギビル河畔に集まり、日光浴、ピクニック、音楽、スポーツを満喫しています。さて、私とはいいますが、毎年発症していた持病の花粉症に悩まされることもなく快適な生活を送っています。

スペインでは日毎に日差しが強くなってきたておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。コラム

す。4月現在のセビリアの気温は26度前後で湿度も少なく非常に過ごしやすい気候で、昼間は半袖で生活しています。セビリア市はバス交通網がしっかりしており、路線が町中を網の目の様に網羅され、0-15分間隔での運行と本数も多く、深夜も1時間間隔で朝まで運行しており、深夜労働者、お酒を飲んだ後の人々、一人で帰宅の女性などに利用されています。市バス全てが低床車バスで、車いすの積み込み降ろしが出来るシステムまで搭載されています。バス停には次のバスの到着予定時刻知らせるモニターが設置されています。また携帯電話でバス停番号を入力すると到着予定時刻を調べることが出来ますので出かけるときなどにも便利です。車内ではテレビモニターにはコンサート、スポーツ情報、クイズが映し出され乗客が飽きない仕組みになっています。なんとこの市バス、ワンコイン(1ユーロ)で市内均一。回数券を購入すると一回あたり約0.5ユーロの超破格値で利用できます。日本の交通局の政策と見たら、お役所仕事であり、赤字分を運賃に回すといったことをしがちですが、ぜひセビリアの交通局を見ていただきたいものです。さて、これからスペイン各地では祭りのシーズンを迎えます。人々は闘牛を楽しみ、狂ったように一日中踊り飲み明かします。Viva la fiesta! (祭りを楽しみましょー!)

(たむら たかよし)

呼びかけ文

福祉、環境、防災など、
これからのまちづくりを進めていくには、様々な課題があります。
大阪のまちを良くしていくために、どうすれば良いのか？何が出来るのか？
まずは、多くの人が意見を出し合い、
ともに考える場をつくっていくことが第一歩です。
すでに、各地域で取り組んでいる人がいます。
何かしたいと考えている人がいます。
どうすればよいか頭をひねっている人がいます。
そんな人が一堂に会して、大阪のまちづくりを考える
大放談会(まちづくりタウンミーティング)を開催します。

プログラム

3/17(土)午後1:30~4:45
於:大阪府商工会館

第I部 特別講演

持続可能な都市のあり方～なぜ参加型まちづくりが必要か～
大久保昌一氏 都市論・行政論 大阪大学名誉教授

第II部 まちづくりタウンミーティング

テーマ『わたしのおおさが、こんなまちにしたい!』
大放談会とパネルディスカッション

コーディネーター

植田 和弘氏 環境経済 京都大学大学院経済学研究科教授

コメンテーター

大久保規子氏 環境法・行政法 大阪大学大学院法学研究科教授

塩崎 賢明氏 都市計画 神戸大学大学院自然科学研究科教授

新田 保次氏 交通システム 大阪大学大学院工学研究科教授

発言者

池田恭和さん(株式会社関西総合研究所代表取締役)

小田切聡さん(榊道頓堀スタジオジャパン、上町台地からまちを考える会理事)

阪本一恵さん(新京橋商店街振興組合 理事)

梅紀久代さん(脳脊髄液減少症患者団体「サン・クラブ」、LLP(有限責任事業組合)ユニバーサルデザイン社会、大阪産業大学客員講師)

藤江 徹 (財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団))

会場からの意見も交えて議論しました。

第III部 まとめの論点整理

テーマ「まちづくりに『参加』するための課題と試み」



放談会にて意見交換をするコメンテーターとパネラーの皆さん

1面所報のシンポジウムの
詳細を紹介します。

あおぞら財団設立10周年記念

地域からすすめる

参加型まちづくりシンポジウム

入江 智恵子

第1部では、大久保昌一先生(大阪大学
名誉教授)から「持続可能な都市のあり方
なぜ参加型まちづくりが必要か」とい
うテーマでの特別講演がなされました。
第2部では、まちづくりタウンミーティ
ングと称して、「わたしのおおさが、こん
なまちにしたい!大放談会」が行われまし
た。

大放談会の名にふさわしく、フロアから
も次々と発言がとびだし、コーディネータ
ーの植田和弘先生他、コメンテーターの3
名の先生方と、意見をやりとりし議論を深
めていきました。

最後に第3部では、まとめとして、まち
づくりを、「大きなまちづくり」と、身近な
まちづくり、2つの視点から捉え、何より

お礼

今回のシンポジウムの企画運営は、研究者やボラン
ティアの皆さんに企画・立案をお願いしました。次の方々
にご協力いただきました。ありがとうございました。

企画会議メンバー

入江智恵子(大阪市立大学大学院経営学研究科環境政策論専攻)
/ 片岡法子(有限会社協働研究所)/ 清水万由子(京都大学
大学院地球環境学舎環境マネジメント専攻博士課程)/ 馬場明男(株
式会社B's(ピース)地域プランニング研究所)/ 藤岡太造(大阪大
学大学院工学院研究科)/ 南聡一郎(京都大学大学院経済学研
究科経済動態分析専攻博士課程)/ 南慎二郎(立命館大学政策
科学研究科博士後期課程) (敬称略・名前順)

事務局

(財)公害地域再生センター



大賑わいの会場から、活発な意見が出ました

- 参加者アンケートから
- ## 会場に広がる共感・期待
- ・街中で自分の気づいたことを少しずつでも手間ひまかけて改善していく実践行為が大切。
 - ・重要なのはこの問題に参加する人間もしくは、この問題を知っている人間をどれだけ多くするかだと思います。官とNGOだけでは出来ることに限界があるのではないのでしょうか。
 - ・十分に市民の声が届いていない現状を、徐々に変えていかなければならないと感じました。
 - ・安全性を第一に考えたまちづくりにすべき。(高齢者の増加、うるおいのある街づくりを中心にすえた)大阪は人よりも従来型の経済優先型である。自動車規制しかない。
 - ・「新しい公共圏」としての活動の場が展開されていると感じました。今後より一層の楽しくて具体的で身近で手の届く大きさでのとりくみを期待しています。
 - ・質問に親切に答えてくださったことに、感謝します。どの方の回答も参考になりました。当事者としてがんばっていきたいとおもいます。
 - ・自分の住むまちをよく知って、その実態を知り、それをベースにして、その改善を考えることが出来ればと思う。
 - ・もっと地元の人々と話をする機会を持たないといけなと感じました。
 - ・まちで、実際に活動されている方々のご経験から、提言を導く、そのような形が現実的で理解しやすいと感じました。
 - ・行政や企業主導の街づくりではなく、市民も街づくりに参加できる場をつくっていかねばいけなと思った。
 - ・主権は国民にあります。執行権は行政にあります。立法者は国民が選びます。行政を主権者の立場にさせるか、それ以外は国民の意志にあります。
 - ・これからの交通まちづくりについて、シンポジウム/フォーラムを企画・開催をぜひお願いします。
 - ・交通事故のない街、子育て、教育のしやすい街、福祉の充実した街についてもまたシンポジウムをやってください。
 - ・環境を保全したいと活動しているが、大阪という大きすぎる町での組織化の困難さを痛感している。
 - ・とにかく住民の実質的参加による「まちづくり」はきわめてむずかしいとの自覚ももっと必要では？

もまず、まちづくりを参加型で行うためのシステム(ルール)を作ることの重要性が指摘されました。まず従来型の参加のシステムを市民がフルに活用していくこと、そして1人ではなくNPOなどの組織を活用するなどして、みんなで取り組むことが大切だということが確認されました。

今回の企画を通じて、何かを旨して既にまちづくりに取り組んでいる人、何かに困っていてまちづくりを始めたい人、取り

組みの中で悩んでいる人など、それぞれが、「自分のまち」についての思いを伝え合い、共感し合うことができたのではないかと思います。

しかし、参加型まちづくりをどう実現していくのか、その具体的・現実的な手法や戦略(?!)は、まだ今後の課題として残っています。こうした「まちづくりタウンミーティング」を第2回、第3回へと継続していくことが、求められていると思います。

最後に塩崎先生のコメントから。「どこかの文化都市」ではなく、「自分のまち」の魅力に気づくこと、「自分のまちにも」本当は宝がたくさん詰まっている。」

そういうまちであって欲しいと同時に、身近なまちに愛着を持てる自分でありたいと思いました。

(いりえ ちえこ・大阪市立大学大学院 経営学研究所)

地域発！ 低速交通の時代がやってくる 道路提言Part 6(素案)を公表

村松 昭夫

20世紀最大の発明と言われる自動車、今やわが国の保有台数は約8000万台、都市空間は自動車に占拠され、私たちの暮らしも、自動車がなければ成り立たないほど自動車依存が進んでいます。1966年のマイカー元年からわずか40年余り、驚くべき早さでの「クルマ依存社会」の到来です。

クルマ社会の問い直し

これほどまでに便利で魅力的な自動車、しかし、当然のことに、「クルマ依存社会」の到来は多くの深刻な問題を発生させてい

ます。自動車排ガス公害によるぜん息などの健康被害、交通事故による甚大な人身損害、郊外店の増加による中心市街地の衰退、自動車騒音や振動、CO₂増加による地球温暖化問題と都市内のヒートアイランド現象等々。加えて本格的に少子高齢化が進み、近い将来急激な人口減少社会が到来する日本社会、こうしたなかで、環境の世紀といわれる21世紀に真に持続可能な社会、都市づくりを行うためには、今一度、自動車中心の都市交通やまちのあり方、クルマとの付き合い方を問い直すことが求められています。

高速から低速へ

その重要な視点の一つが、現代社会が執拗に追い求めてきた高速交通ではなく、その対極にある徒歩や自転車、公共交通など私たちの身近な低速の交通手段を出発点にした地域発の「交通まちづくり」ではないでしょうか。それは、人々がふれあい、人と人の協働と連帯によって新たな文化が生み出される地域づくりに繋がるのではないかと、そんな思いから、西淀川道路環境政策検討会は、道路提言Part 6「西淀

川発！ これからの交通まちづくり」低速交通のすすめ」(素案)を発表しました。新たな交通まちづくりのキーワードは、「低速交通」と「地域発」であり、それが道路提言Part 6の問題意識です。

ご意見をお寄せください

構成は、あおぞら一家のつばやきを出発点に、自動車交通に関する現状と課題を確認し、「低速交通」と「地域発」の視点を軸に、道路・交通施策(政策、計画、参加、教育、財源、法律)の方向と展望をわかりやすく整理しています。

自動車排ガス公害で痛めつけられた西淀川だからこそ、新たな交通まちづくりのモデルを作り上げたい、道路提言Part 6はそのことを呼びかけています。まだ、素案の段階です。多くの方々からのご意見をお待ちしています。

(むらまつ) あきお・弁護士、財団専務理事)



「西淀川発！ これからの交通まちづくり
～低速交通のすすめ～ (素案)」
編者：西淀川道路環境対策検討会
発行：(財)公害地域再生センター
A4版84ページ

西淀川道路環境対策検討会 前身は「西淀川道路提言研究会」。1998年11月発足、西淀川公害訴訟の和解後設置された原告、国・阪神高速道路公団との「西淀川地区道路遠藤環境に冠する連絡会」での検討課題をふまえて、政策・提言の作成や道路環境対策について話し合いをすすめている。これまで、西淀川道路環境再生プラン(1998年7月)、西淀川道路環境再生プランPart2(1998年6月)、Part3(2000年3月)、Part4(2000年8月)、Part5(2001年5月)を発表した。



河川を覆蓋した清溪高架道路は、4車線の自動車専用道路として1日平均約10万台以上が走行していた。当時の様子は、川の壁面に組み込まれた写真のモニュメントに見ることができる。



出会いと和合、平和と統一を願う文化空間「参与と和合の壁」約2万人の市民が参加して、10cm四方の陶磁器質タイルに、思い思いの絵や文字を書き入れた。

市民参加で憩いの場に

清溪川復元事業完成から1年

矢羽田 薫

はじめに

韓国の首都、ソウル市で2003年7月から実施された高架道路をとりこわして川に復元する清溪川（チョンゲチョン）復元事業は、2年2ヶ月の歳月を経て、2005年10月にグランドオープンした。私は、2003年11月に現地を視察したが（詳細はリベラ2004年3月号参照）、事業完成から1年を経て、再びソウルを訪れる機会を得た。本稿では、事業への市民参加という視点で、完成後の現状や事業に対するソウル市民の意識等について報告する。

1 完成後の清溪川

事業の実施にあたっては、清溪川周辺の商人（推定約10万人）や、石築や橋など歴史的文化遺産の保存を心配したり、工事に発生する廃棄物処理や、水質汚染等の問題に注目する市民から、事業に対する反発の声が多く寄せられたが、最終的には、市民の理解を得て、事業は着工され完成を見た。完成後の清溪川には、1年で約627万人が訪問している。日本からの視察や調査団も多い。歴史・文化と自然環境を回復し、維持可能なまちとして、ソウルの都市機能を高めるなど、新たな付加価値も発生している。現時点での事業評価としては、概ね良好であると言えるだろう。

一方、清溪川復元事業により道路撤去が行われたため、2004年7月より、バスの交通システムが全面的に改定された。今後は、事業完成に伴う、ソウル市全体に対する社会的影響についても、継続的な検証と住民の声を評価として反映する仕組みが必要だと思われる。

2 市民参加の取り組み

ソウル市は、2002年9月、

復元事業の開始にあたり、市民参加を目的として、「清溪川復元市民委員会」を設置した。現在、134人の市民代表や専門家等により運営されている。オープンまでにワークショップや公聴会、広報館でのボランティアの募集などを行った。また、市民が直接参加できる事業として、新しく架けられる橋の寄附募金、壁面の絵や橋梁のアイデアを公募した。

事業完成後、清溪川では、「清溪川フェスティバル」として、ハイソウルマラソン大会、コンサートや映画祭等が開催され、多くの市民が参加している。市民の「満足度調査」を実施したところ、大多数が、事業について良い印象を持っていること、川に架かる橋や文化遺産、イベントや照明・噴水などが、評価できると考えていることが分かった。

また、歴史や文化資料を展示している清溪川文化館では、毎月第3木曜日に、様々な分野の方に依頼をして、「文化が流れる清溪川の夕べ」という行事が恒例で実施され、近所の家族連れなど約1000人前後が参加している。その他、映画の上映会なども定期的に行われている様子である。

今後、清溪川がより、市民に馴染み、共有の財産として、次世代に引き継がれていくためには、現在の清溪川についての様々な視点からの気づきを、より多くの市民の間で対話し、合意形成を深めていくことと同時に、市民が共感できる構想を提示しながら、コミュニケーションを取り続けようとする行政の役割がかみ合うところに期待したい。

（やはた かおる・財団研究員）

「クルマ依存社会を考える」

道路環境市民塾の4年間の取り組み

小平 智子

大気汚染公害など様々な課題を抱えるクルマ社会。道路環境問題は、クルマに依存し生活をする私たちにとって身近な問題であるにもかかわらず、「難しい」と感じることが多いのではないだろうか。

道路環境市民塾は、道路や環境の問題を、様々な切り口でわかりやすく問題提起を行うと同時に、みんなで協力しながらクルマ社会を考えていく場をつくるための講座です。2003年にスタートし、今年で5年目を迎えました。

キーワードは「参加型」

市民塾のプログラムは、単に講義だけではありません。皆の考えを会場で共有し、議論を深めるために、「参加型」で行われています。参加者が話を聞くだけでなく、グループに分かれての意見交換や発表を行います。さらに参加者同士の交流を楽しく行うために懇親会も開催します。

また、講座の企画や運営自体も、ボランティアによる「参加型」です。運営会議では、何を伝えるのか、テーマ設定や講座の運営方法など熱い議論が繰り広げられてい

ます。

4年間で生み出したもの

4年間で開いた講座の回数は計24回（番外編含む）。運営委員の疑問や興味・関心がもととなり、いろいろな切り口のテーマを学びました。また、ツアーや、ゲームを交えたワークシヨップ等、各回の内容に同じ、様々な形のプログラムを生み出しました。今春完成の教材、『フードマイレージ買物ゲーム』は、第5期の第5回講座「自分と自動車のつきあい方を考える」が、出発点となったものです。企画・運営・実施を参加型で行うことにより、それぞれの意見や課題を共有し解決の方法などを議論する中で、市民塾はさらに新しい疑問や知恵を生み出す場に、なっていると思います。

また、講師などのゲストは27名、参加者は450名。参加者として講座に参加した後、運営委員となった人たちもたくさんいます。

市民塾に参加しませんか

これからのまちづくりをすすめる上で大切と言われる「参加」の楽しさや大切さを、より多くの人に実感・実践してもらおう場に市民塾がなっただけでほしいと願っています。知識、経験、人のつながり...4年間の蓄積をふまえ、今後どう展開するか、みんなと一緒に考えてみませんか？

（おだいら ともこ・財団研究員）



運営委員のメッセージ

私は、最初一般参加者として市民塾に参加したのだが、興味を持ったので途中から運営委員になった。一般として参加するのも面白かったが、運営委員の方が、その数倍も面白い。

環境学習といえば...固い、暗い、難しい??そんなイメージをうちやぶってやろうという人のご参加をお待ちしています。新しい学びの形がここから始まる!

とにかく、運営委員の議論はとことん熱かった。道路市民塾の企画会議ほど道路環境問題について熱く語りあえる場は他にない。



塾長のメッセージ

通勤、通学、旅行に物流、いまやクルマがないと生活できない現代社会。一方でクルマであふれかえる道路、交通事故に環境破壊。道路・環境の問題は21世紀を読み解く上で重要なテーマです。

さて、5期目を迎える市民塾、どんな支店と手法で切り込んでいくか、塾生みんなで作る講座にしませんか。

塾長：村松昭夫（弁護士・財団専務理事）

大阪の空気が汚いのは昔の話と知っているあなた。
きっとそれは目に見えないだけ。
汚い空気は当たり前だと思っているあなた。
きっとそれはあきらめているだけ。
クルマが多いのは仕方がないと思っているあなた。
きっとそれは、慣らされているだけ。
何のための道ですか？ 誰のためのクルマですか？
でも、そんなに簡単な話じゃありません。
道路がないとどこへも行けない。クルマがないと生活できない。
では、どうすればいいのでしょうか？
いっしょに考えてみませんか？



3色のカードを使い 意見を表明する参加者

第 期(2003年度)

運営会議では戦場のようにはげしく
講座内容や市民塾のあり方を議論

- 【第1回】 4/19(土)
手渡したいのは青い空
～持続可能な交通の未来を考える～
- 【第2回】 5/17(土)
大阪の空気がきれいになったの？
～ブロックを使って考えよう～
- 【第3回】 6/21(土)
フィールドワーク in 西須磨
～まちに巨大な道路ができるとき～
- 【第4回】 7/19(土)
参加で変えよう政策づくり・まちづくり
- 【第5回】 8/23(土)
自分と自動車のつきあい方を考える
- 【第6回】 9/20(土)
環境再生VS都市再生?!～持続可能なまちへの道しるべ～
- 【第7回】 10/18(土)
私の思いを形にする



SCPブロックを使って
大阪の空気の状況を確認

第 期(2004年度)

ロールプレイやフィールドワーク...
生まれた様々な講座の形

- 【第1回】 9/4(土)
21世紀・どう変える?クルマ社会
- 【第2回】 11/27(土)
測定・体験・R43公害
～考えよう阪神間の交通と
未来像～
- 【第3回】 1/22(土)
ある日突然! 道路建設の話が...
あなたならどうする?～私の街に
大きな道路が通ったならば～
- 【第4回】 3/12(土)
西淀川で交通まちづくりを考える～まちの"たからもの"
再発見フィールドワーク&ワークショップ
- 【特別編】 7/31(土) 8/1(日)
今ローカルが新しい! 北陸まちづくり視察ツアー



全回出席者には
修了書を授与

実施した講座

テーマを見ているだけで、クルマ
社会の抱える問題の多様
性が見えてくる!?

第 期(2005年度)

自転車をいかしたまちづくりがテーマ
西淀川にこだわり連続講座を開催

- 【第1回】 7/10(土)
人や自転車が中心の交通まちづくり
- 【第2回】 9/4(日)
打ち合わせと報告会
- 【第3回】 9/24(土)
ミニ講演 カーフリーデー
欧米で始まったカーフリーデーの概略紹介
- 【第4回】 10/10(月・祝)
お試イベント企画
「にしよどチャリンコ祭り」
in 大野川緑陰道路
- 【第5回】 11/3(木・祝)
評価会・今後の取り組み



ペロタクシーにはアグネスチャン理事
も乗りました(チャリンコ祭り)

第 期(2006年度)

座学+ワークショップでじっくり学ぶ
クルマ社会に様々なテーマで切り込む

- 【プレ企画】 4/8(土)
春爛漫・大阪サイクリングツアー
～大阪市北部を中心にサイク
リングと花見を楽しむ会～
- 【第1回】 5/21(日)
カーフリーデーから道と交通を考える
- 【第2回】 7/23(日)
教えて!道路特定財源
- 【第3回】 8/26(土) 27(日)
物流の現場をたどるツアー
- 【第4回】 10/1(日)
クルマをめぐるメディア論
～クルマ広告の秘密が知りたい～
- 【第5回】 11/26(日)
クルマがないと何に乗る?
～自転車・公共交通の巻～
- 【打上げ】 1/28(日)
交通で未来の大阪を語る回
～道路環境市民塾みたいなた
場から何かが始まる!～



阪堺電車を貸り切っておおいに
語り合い 交流を深めました



ほっと ニュース

おかげさまでエコミ
ユーズ開館1周年
「エココミュニティ運営
協議会」、「西淀川の
歴史めぐり」開催



姫嶋神社の前で「はい、ポーズ」=エコミユーズ開館1周年記念イベント「みんなで歩こう 西淀川の歴史めぐり」
3月25日

の小学生から大人まで17人が参加して、ウォーキングマップを片手に西淀川のまちを歩きました。

未来の医者に期待

3月23日（金）、全国の医学部の学生など11名が西淀川公害の歴史を学びに、あおぞら財団を訪れました。（第28回民医連の医療と研修を考える医学生のとどいこ）ビデオで西淀川公害について学んだ後、森脇君雄理事長と村松昭夫専務理事らに対応しました。森脇理事長は、医者の努力によって、大阪のぜん息医療の技術がとても優れていること、村松専務理事は、公害被害を立証する上で医者の役割など、具体的な事例を踏まえながら、未来の医者を激励する話の後、エコミユーズを見学しました。

2007年度事業計画、 予算決まる

2007年度の事業計画と予算を審議する第19回評議員会（2月17日、あおぞらビル）、第28回通常理事会（3月17日、大阪府商工会館）が開かれ、それぞれ全会一致で承認しました。

リレーエッセー

上海は初めてである。ここは、アヘン戦争以来、欧米の租界が設けられた地であり、モダンな建築物が残っている。さまざま興味を惹かれる町だ。しかし、なによりも改革開放の最先端で市場経済が沸き立つ街である。ともかく人が多い。人口1600万人の誰もが稼

上海はどこへ向かう



塩崎 賢明

われる。「先に豊かになれる者からなれ」というものの、格差はどんどん拡大している。猛スピードの開発が可能なのも、土地所有権や市民的権利が制限されているからである。一党独裁下での市民的・政治的自由はどう保障されていくのか。このま

までは済まないと思う反面、中国を欧米的（日本的）尺度で推し量るのは危険かもしれないとも、思う。13億の人間が生

きながら生きていくためには、多少の矛盾はやむをえないと、国民自身も考えているのではないかとも思える。

再開発が進む市内にも、まだまだ、庶民の下町（里弄住宅や石庫門住宅）は残っている。入り組んだ狭い路地にひとびとが肩を寄せ合っており、和やかに暮らしている。この暮らしが

を保ちながら、近代化を成し遂げる道はないのか、そこにこそアジアの未来があるのではないかと思うのである。

（しおさき・よしみつ 神戸大学大学院
工学研究科教授、財団理事）

- 2日(金) ボランティアの日
- 3日(土) 生き生き地球館公開講座地球環境シンポジウム「地球の明日を考える」(参加)
- 5日(月) 西淀川区保健センター地域保健福祉課地域活動に関するヒアリング調査
広報会議
- 6日(火) 【仮称】チャリンコまちづくりの会(大阪本部) 定例会
西淀川公害患者と家族の会「いきいきリラックス教室-レイフラー-づくりと座って踊れるらくちんフラダンス」
- 7日(水) 拡大事務局会議
- 8日(木) てづくりせつけん教室
社団法人大阪市西淀川区社会福祉協議会への調査協力申入(平成18年度高齢認定患者リハビリテーションプログラムの開発に関する調査研究)
- 9日(金) 第62回西淀川道路環境対策検討会
- 10日(土) 交通まちづくり会議in和歌山(参加)
- 13日(火) 事務局会議
花粉症調査ワーキング会議
平成18年度高齢認定患者リハビリテーションプログラムの開発に関する調査研究業務
倉敷市保健福祉局保険部医療給付課ヒアリング調査
ECOまちネットワーク・よどがわ第2回理事会(参加)
水島協同病院呼吸ケアプログラム検討会
- 14日(水) 第12回フードマイレージ教材化研究会
大阪市立大学医学部市民医学講座第110回「咳・痰・息切れに悩んでいる人に
-薬物療法と呼吸リハビリテーション-」(参加)
- 15日(木) 大阪市小学校教育研究会総合研究発表会(発表:林)
- 16日(金) 平成18年度長期の聞き取り法による花粉症環境基礎調査第2回検討会
第17回中央環境審議会環境保健部会(参加)
- 17日(土) 神戸シルバーカレッジフードマイレージプログラム実施
- 19日(月) 第19回評議員会
第11回西淀川地域再生研究会
平成18年度高齢認定患者リハビリテーションプログラムの開発に関する調査研究
「活動」向上プログラム検討のための講演会・グループ講演会(第1回)
相思社メンバー来館
- 20日(火) 歴史懇話会(参加)
- 21日(水) 事務局会議
資料館定例会議
- 22日(木) 第22回尼崎道路連絡会(参加)
- 23日(金) 西淀川高校卒業式(参加)
- 24日(土) 道路環境市民塾運営会議
- 26日(月) 平成18年度高齢認定患者リハビリテーションプログラムの開発に関する調査研究
「活動」向上プログラム検討のための講演会・グループ講演会(第2回)
- 27日(火) 事務局会議
- 28日(水) 社会起業家見本市(参加)

2月

事務局日誌

3月

- 1日(木) 大阪市保健所呼吸器講演会「COPDはどのような病気-ここが知りたい!最新の治療・予防」(参加)
- 2日(金) ボランティアの日
- 4日(日) 西淀川道路環境対策検討会「道路提言パート6」編集会議
- 5日(月) 平成18年度高齢認定患者リハビリテーションプログラムの開発に関する調査研究
「活動」向上プログラム検討のための講演会・グループ講演会(第3回)
- 6日(火) 拡大事務局会議
水島協同病院呼吸ケアプログラム検討会
近畿地域におけるCSR活動「環境ステークホルダー・ミーティング」(参加)
- 7日(水) 地域資料シンポ第10回準備研究会
近畿地域ESDフォーラム
- 9日(金) 金沢大学留学生グループ受入
- 10日(土) ぜん息予防講演会「これだけは知っておきたい!『小児ぜん息』-健やかな日常生活のために-」(参加)
- 13日(火) 事務局会議
第13回 フードマイレージ教材化研究会
資料館定例会議
- 14日(水) ECOまちネットワークよどがわ第3回理事会(参加)
エコミューズ第1回運営協議会
- 15日(木) いずみ市民生協フードマイレージ取材受入
- 16日(金) 国民医療を守る西淀川区民集会(参加)
環境活動のためのNPOと大学との協働・連携セミナー(パネリスト:上田)
- 17日(土) 第28回通達理事会
地域からすすめる参加型まちづくりシンポジウム
- 20日(火) 事務局会議
持続可能な発展の重層的な環境ガバナンスシンポジウム(参加)
- 23日(金) 第42回西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会
平成18年度高齢認定患者リハビリテーションプログラムの開発に関する調査研究「千住秀明先生講演会」
民医連・医学生のつどい見学受入
- 25日(日) エコミューズ開館1周年記念・みんなで歩こう 西淀川の歴史めぐり
- 27日(火) 事務局会議
- 28日(水) 京都精華大学授業「持続可能な発展プログラム(LINCS)」(講師:林)
- 30日(金) 平成18年度高齢認定患者リハビリテーションプログラムの開発に関する調査研究
「活動」向上プログラム検討のための講演会・グループ講演会(第4回)
平成18年度高齢認定患者リハビリテーションプログラムの開発に関する調査研究
「活動」向上プログラム作業グループ第2回会議

訃報

当財団監事の熊野実夫さんが、4月5日ご逝去されました。84歳 熊野さんは財団創立(1996年)時に監事に就任、財団の事業と活動の発展に尽くされました。謹んでご冥福をお祈りします。

お知らせ

お知らせ
催し
矢倉海岸定例探鳥会(日本野鳥の会大阪支部の共催、毎週第3土曜日開催)
日時 5月19日(土) 午前9時30分~12時30分頃
(現地解散)
集合 阪神電鉄西大阪線「福」
場所 駅改札口午前9時30分
矢倉緑地公園

おねがいとおしらせ

リベラへのご意見・ご要望または投稿をお待ちしています。また、メール通信「あおぞらEXPRESS」を開設しています。ぜひご利用下さい。
配信を希望される方は
<http://groups.yahoo.co.jp/group/aozora-mail/>
から登録できます。

お礼

お礼
寄附・寄贈者(敬称略)
左記の方々から寄付・寄贈をいただきました。(2007年2月・3月)心から御礼を申し上げます。
尼崎公害患者・家族の会/上田幹枝/遠洲尋美/小田周治/小田康徳/神長唯/川崎まちづくり研究室/川崎美榮子/北泊謙太郎/酒井健一/佐無田光/塩貝隆夫/杉山弥生/全国歴史資料保存利用機関連絡協議会/津下佳世/徳島市80リダー有志/中村昌史/西村弘/馬場明男/福井史料ネットワーク/三宅宏司/宮崎悦子

【編集後記】

本紙1面で紹介しましたがこのほど、朝日新聞社から「明日への環境賞」をいただくことになりました。患者さん達の命の代償である和解金と「手渡したいのは青い空」の願いを託されての財団設立、10年間の活動が評価されたことがうれしいです。河北地域エコドライブ推進研究会の平成18年度地球温暖化防止環境大臣賞受賞につづく2冠達成です。もうひとつ、密かに期待しているのが「鈴木賞」。全日本トラック協会が全国の優れた活動に贈るもので、トラック協会河北支部が受賞できれば3冠達成ですが...

(T)

『Libella』No.96 2007年5月号(隔月1日、年6回発行)
発行所 (財)公害地域再生センター(あおぞら財団)
編集人 上田敏幸

大阪市西淀川区千舟 1-1-1 あおぞらビル4階
Tel.06-6475-8885 Fax.06-6478-5885
<http://www.aozora.or.jp/>
E-Mail webmaster@aozora.or.jp

印刷所 あゆみコーポレーション
定価 一部400円(郵送料込み)

会員の購読料は会費に含まれています。
郵便振替口座 00960-9-124893(加入者名 あおぞら財団)
乱丁・落丁はお取り替えます。本紙掲載記事の無断転載を禁じます。



しみず まゆこ 清水万由子

1980年愛知県岡崎市生まれ。植田和弘ゼミ。西淀川地域再生研究会事務局を務め、地域からすすめる参加型まちづくりシンポジウム企画会議メンバーとしてシンポジウムの企画・運営に参加した。

たくさんの方が、「手渡したいのは青い空」と同じ思いを持っているんですね。

あまり気乗りがしなくて…

「腰をすえて研究したらどう、たとえば西淀川で」

博士課程1年目の秋、指導教員の植田先生の言葉は晴天の霹靂でした。研究テーマである「持続可能なまちづくり」と公害地域の再生は、私の中ではつながっていないかったです。ここだけの話ですが、その時は気乗りしませんでした。先生のアドバイスを無視するわけにはいかず、かといって西淀川の公害についてはまったく不勉強で断る理由も思いつかないまま、とりあえずあおぞら財団の資料室(現エコミュージズ)に駆け込みました。

ブックレットをいただいて読んだり、患者さんの体験談を読んだり、裁判資料を見たり、財団の方々に質問したり、時には自転車に乗って西淀川の街のにおいをかいだりしながら、おぼろげにこれまでのことを理解していきました。

見なかったふりはできない

そうするうちに、これまで社会科の教科書の煙突の写真でしかなかった公害問題が、息が苦しくて眠れない人となり、喘息の発作のために誇りにしていた仕事をやめなければいけなくなった人となり、またその家族となっていきました。どんな研究ができるのか、どんな研究をしたらよいのか、私には何も見通しがありませんでしたが、見なかったふりではできないと感じて、西淀川の地域再生という課題を研究の中心に据えることにしました。

今は修行中の身ですが…

その冬に西淀川地域再生研究会が始まり、西淀川やまちづくりについて、勉強

と議論を重ねてきました。少しずつ、まちづくりに対する考えを共有できるようになってきたように思います。特に今回の「地域からすすめる参加型まちづくりシンポジウム」では、公害の問題を前面に出すことはありませんでしたが、住みやすいまちにしたいと思って行動している人、何かしたいと思っている人が、あちこちにいることがわかりました。たくさんの方が、「手渡したいのは青い空」と同じ思いを持っているんですね。青い空の他にも、きれいな水辺、子供が思い切り走り回れる広場、誰でも安心して通ることができる道路。それが、私の望みであり、みんなの望みです。誰もがそう言えるまちになったら、とても幸せだと思います。

研究者は、当事者ではありません。地域再生を担う方々にとって役に立つ研究をしたいと思う一方で、研究は誰かのためだけにやるのではないとも思います。そんなことを思いながら、1年が経ってしまいました。今は修行中の身ですが、これからも末永くよろしく願います。